

「防災推進国民大会2022」の開催報告

未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～

内閣府(防災担当)普及啓発・連携担当



1 はじめに

防災推進国民大会（通称「ぼうさいこくたい」）は、国民の防災意識向上のため、防災の活動を実践する多様な団体が一堂に会し、さまざまな取組や知見を発信・共有する場です。今回は、兵庫県神戸市で10月22日、23日に開催しました。

2015年の「第3回国連防災世界会議」で採択された国連の「仙台防災枠組2015-2030」の中で、自助・共助の重要性が国際的な共通認識とされたことを受け、国民の更なる防災意識向上を図るべく、各界各層の有識者から成る「防災推進国民会議」が設立されました。2016年に、この防災推進国民会議、防災推進協議会及び内閣府の三者が主催者となって、第1回を開催したのがぼうさいこくたいの始まりです。



ハイレベルセッションの様子①

(左：齋藤兵庫県知事、右：久元神戸市長)

今大会も、会場での参加とオンラインでの参加を組み合わせたハイブリッド形式で行いました。近畿圏での初めての開催であり、阪神・淡路大震災の被災地である兵庫県での開催ということもあり、来場者は2日間で約12,000人、オンライン視聴は約11,000回となり、多くの方にご参加いただきました。

2 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

7回目となる今年の大会は、阪神・淡路大震災の復興まちづくりのシンボルとして整備された「HAT神戸」エリアで開催しました。同エリアに所在し、今回の大会のメイン会場ともなった「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」は、今年折しも開設20周年の節目の年に当たりますが、同センターは、これまで阪神・淡路大震災の経験や教訓、創造的復興の過程を発信するだけでなく、実践的な防災研究や人材育成、被災地支援など、国内外の防災・減災活動の推進に貢献してきました。



ハイレベルセッションの様子②



車両展示の様子



プレゼンテーションの様子

3 オープニングセッション・ ハイレベルセッション

オープニングの挨拶では、主催者を代表して谷防災担当大臣及び清家日本赤十字社長（防災推進国民会議議長、防災推進協議会会長）が挨拶するとともに、開催地代表として齋藤兵庫県知事及び久元神戸市長からも挨拶が行われました。

また、ハイレベルセッションでは、「大災害とわたし～トップリーダーがつなぐ災害の経験と教訓」をテーマに、齋藤兵庫県知事、久元神戸市長、国連防災機関（UNDRR）長であり国連事務総長特別代表（防災担当）の水鳥真美氏など、開催地及び国内外の各界を代表するトップリーダーから、災害にまつわる個人的な体験と、それぞれの立場から防災の取組の中で何を意識してきたかを語っていただき、国民一人ひとりが改めて災害への備えの大切さを見つめ直すきっかけとなりました。

4 セッション、ワークショップ、 屋外展示等

今大会では、延べ300を超える団体に出展いただき、HAT神戸エリアにおいてさまざまな取組や知見の発信・共有を行いました。具体的には、講演型のセッションや、

来場者が楽しく学べる体験型ワークショップ、ブースやポスターで各団体の取組を発表するプレゼンテーション及びポスターセッション、今回初の試みとなった、出展団体の取組をステージで発表するイグナイトステージのほか、車両展示などを行いました。また、今回の特色として、「人と防災未来センター」が中心となり地元有志と開催した会議（現地企画・情報共有会議）から生まれた共同企画の出展がなされるなど、これまで以上に地元の方々と一緒に作り上げた大会となりました。

5 次回開催のお知らせ

次回の「防災推進国民大会2023」は、神奈川県横浜市で開催する予定です。神奈川県は1923年（大正12年）9月1日に発生した関東大震災の震源地ですが、来年は大震災の発生から100年の節目の年に当たります。関東大震災は、近代日本の首都圏に未曾有の被害をもたらした、我が国の災害史において極めて重要な災害です。内閣府では、ぼうさいこくたいを通して、大震災の記憶の継承や首都圏住民に対する防災意識の向上、普及啓発が行えるよう、地元自治体の協力も得ながら現在準備を進めています。